

# ドイツさんはビールが大好き



遠足で飲むビールもまた格別だ（以下、写真は全て久留米市教育委員会所蔵）

## ・ビールはドイツ人の「命」

例年9月から10月にかけてドイツ・バイエルン州の州都ミュンヘンで、秋祭り「オクトーバーフェスト」が開催されます。42haに及ぶ広大な会場には、仮設の巨大テントが建ち並び、期間中600万人を超える人々が訪れます。彼らの目的は、会場で提供されるやや高めアルコール度数で長期熟成のフェストビア。福岡市で毎年10月下旬に開催されている「福岡オクトーバーフェスト」会場も、本場さながらにビールを愛する友人同士や家族連れで大変な賑わいです。

楽団の演奏に合わせて陽気に皆で歌い踊り、ミュンヘンビールが注がれた大きなジョッキを片手に「Prost！（乾杯）」を繰り返します。会場で盛り上がるドイツ男性に、「ドイツ人にとってビールとは何か？」と質問すると、「命だ」という明快な答えが返ってきました。ドイツ人のビールに対する思い入れは、当時の捕虜の日記からも強く伝わってきます。



酒保（売店）にて。テーブルには麒麟ビール

せん。先ほど登場した福岡オクトーバーフェストのドイツ人が熱く語っていたのは、ビールは1人で飲む酒ではなく、皆で楽しく飲むもの。収容所内でも準備されたアルコールが尽きるまで、いつ終わるとも知れぬ宴は続きました。

「〔1915年6月17日〕ある南ドイツ出身の人が、この施設（註：久留米俘虜収容所）はミュンヘンのオクトーバーフェストを思い起こさせると言ったが、当たらずもがなである。いろいろな音楽隊が演奏すると、その幻想は…ビール以外…完璧だ。つまり『サクラ※1)』や『麒麟』はこの食堂でも入手できたが、なんといっても『ミュンヘンビール』じゃない。」

（「フィッシャー回想録」生熊文訳）

### ・捕虜生活を支えたビール

捕虜たちの飲酒については、国内12カ所にあるどの収容所でも准士官・下士卒にはビールが許され、将校の場合はその他の酒類についても制限が緩やかであったようです。クリスマスパーティーや新年会、捕虜の誕生会など、収容所内での祝い事には、まずはビールが欠かせませ

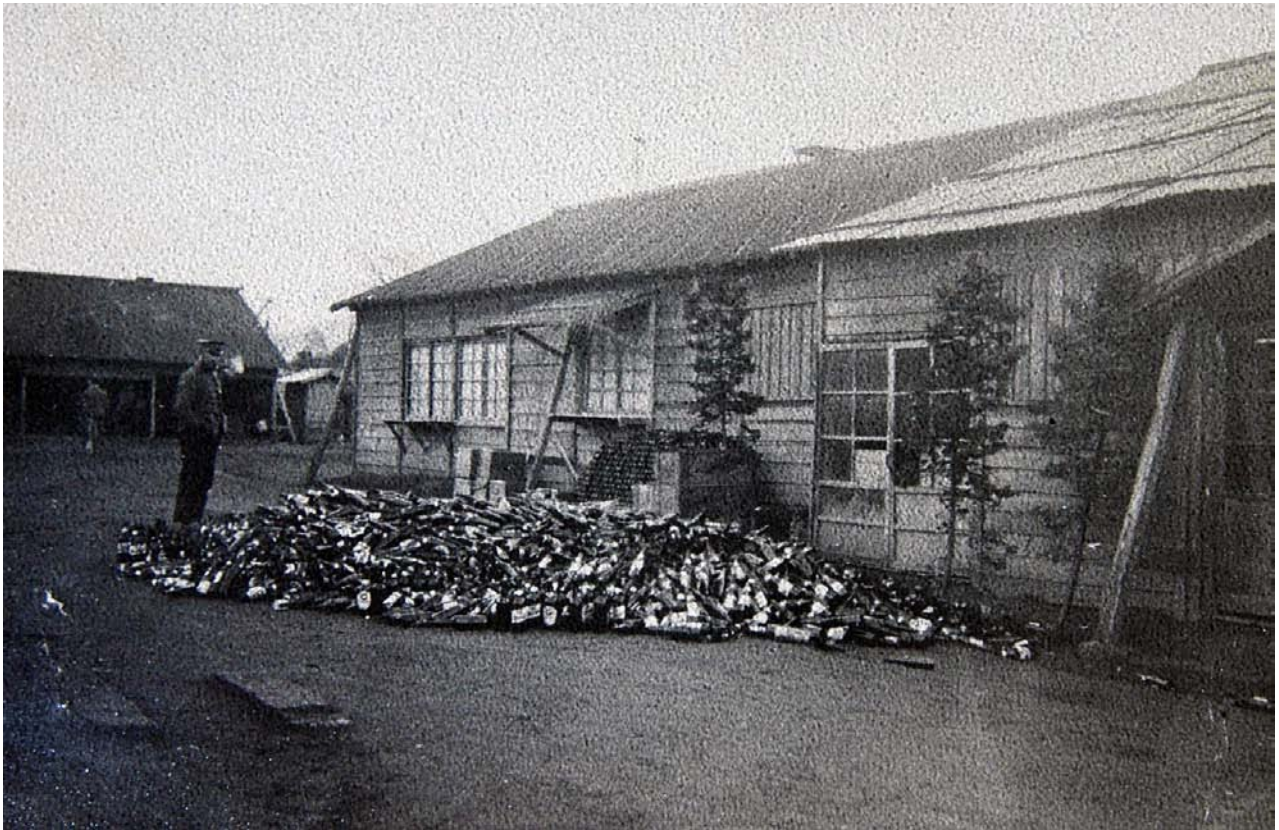
「（二日酔いの捕虜がぶつぶつと言うには）『二度とビールなんか飲むものか。ビールは毒だ。』それから我々は樅の木の枝で酔っぱらいをくすぐって、次に頭に水をぶっ掛けた。酔払いは悪態をついて、服を着ると、朝の飲み会を始めた。昼にはまた酔払って、午後は熟睡、そして夕方からまた新たな力で（註：飲み会に）出かけていくのだった。」

（「エルンスト・クルーゲ日記」生熊文抄訳）

一方で、長引く捕虜生活へのストレスや苦しみ、不安、寂しさを紛らわせるためにも、ビールは欠かせない飲み物でもありました。

「〔1919年8月30日〕せめて夜良く眠れるように、僕も悪徳に身を任せた。またビールを飲んでるのだ。一人だと飲もうとも思わない。しかし夜この暗い隅っこで何をしたら良いのか。それで『もっとましな境遇』の戦友とトランプ遊びの約束をしたり、自分の部屋のある将校や副曹長を尋ねてビールを1～2本飲む。または娯楽に集まると、ビールの3～4本は空ける。一瓶40銭※2)、つまり2マルク50だ。10時には心地よくベッドに入る。そしていつも翌朝はお金のことも含めて「良心が」咎めることになる。夜はまた飲み始める。」

（「フィッシャー回想録」生熊文訳に傍点を付加）



宴の後、収容所内に山と積み上げられたビール瓶

### ・驚くべき消費量

では、ドイツさんたちは一体どれくらいのビールを飲んでいたのでしょうか。大正6年(1917)1月12日付『福岡日日新聞』には、大正5年の収容所酒保(売店)での下士卒が購入したビールの売上高が記載されています。これによると2万88円92銭で、当時の酒保での価格とされる40銭で割ると、ビール瓶約6万222本。下士卒の人数は1,236人ですから、1人あたり1年間で約48本購入した計算になります。

第一次世界大戦以降、わが国ではビールの大衆化が進み、都市部のビヤホールやカフェ、食堂などで一般的に飲まれるようになります。それでも大正15年(1926)の統計を見ると、日本人の年間消費量はせいぜい3~4本。ドイツさんたちの、桁違いで豪快な飲みっぷりには驚嘆するばかりです。もしかしたら、故国から遠く離れ捕虜生活を送る彼らにとって、ビールとは生きる喜びと希望をつなぐもの、いや「命」そのものだったのかもしれない。

---

注1) サクラビールは、大正2年(1913)九州初のビール工場である帝国麦酒(株)が醸造開始。門司から国内外に輸出、久留米俘虜収容所でも盛んに消費された。久留米俘虜収容所跡の発掘調査でも、サクラビール、キリンビールの瓶が出土している。

注2) 参考として大正4年(1915)のビールの市場価格は、一瓶23銭。同9年で27銭。収容所内での価格40銭はかなり割高であるように思われる。